

私どもが属している新日中友好 21 世紀委員会を改めて作ろうとイニシアチブをとったのも小泉純一郎総理なのです。単に靖国神社に行ったか行かないかということで大騒ぎになっただけで、この人は裏ではそういう努力をものすごくしたのです。これは特筆に価します。

今までもう 3 年間やりましたけれども、毎年、3 ヶ月に 1 回ぐらい 3、400 人というレベルで全中国から選抜された高校生が日本に来て、ホームステイして回っている。

日本体験をした大規模な中国の高校生ができると同時に、中国体験をした大規模な日本の高校生もできているのです。11 月 23 日には南京で、この 2 年間に日本体験をした高校生が集まって同窓会をやろうと(私は実はそこに団長として、南京と重慶まで行くことになるのですが)、そういう新しい交流の道ができた。

これは、20 数年前にもありまして、菅直人という人も今から 30 年近く前、青年交流で渡っています。当時、向こうの受け入れ先の親分は、共青团書記長胡錦濤さんで、そのときに会っているのです。だから、菅直人さんが今、総理になっていればその胡錦濤さんと、総理として会えた、しかし菅直人さんはなれなかった。

あるいは今回政治局常務委員となった遼寧

省の李克強さんも、岩手県にホームステイしていて、その面倒を見た方が民主党の小沢一郎さんというわけです。これも、時期遅れですね。もしかして、青年交流として知り合った両方がトップ同士になったかもしれない。

つまり、新しい時代に始まった青年交流で、中国から毎年、何千人も来るプログラムも予算もできていますから、日本体験した人たちの中から、やがて大使や、外務大臣、商務大臣になる人が出てくるかもしれない。今、中国で「太子党」とか「共青团グループ」とかあるでしょ、「日本留学マフィアグループ」という指導者たちが出ることを私は期待してやっています。逆に日本から中国に送っている留学生の諸君も、中国経験して帰ってきています。これからはアメリカではなく中国に留学したいと言うようになっていきます。

この数年の間にそういうことがなぜ起こったかという、実は中国に敵意を持っていると思われていた小泉総理と安倍さんがやったのです。安倍さんは温家宝さんと会った後で、21 世紀青年交流大事業として、どこの省庁でもうらやむような数百億円の予算を取りました。ですから、政治は単純に見てはいけないというのが私のメッセージであります。

